

子ども食堂を支援

AMDA
組織 産学官や民間団体

ひとりの親や共働き家で構成する「子ども食堂」の子どもの居場所となる県内の「子ども食堂」をサポートしようと、国際医療ボラティアAMDA(岡山県北區伊福町)は23日、産学官と民間団体

AMDAによると、

「子ども食堂支援プラットフォーム」を発足させ、岡山市で記念フォーラムを開いた。食材購入費の提供などを通じて活動を支える。



国内の子ども7人に1人が貧困状態にあるといわれる中、毎日の食と健康が行き届き、希望が持てる社会をつくらうと設立した。岡山経済同友会、川崎医

療福祉大、赤磐市など10団体で構成。県内に約60あるという子ども食堂に対し、食材購入費のほか、職場見学やボランティア活動といった社会経験を積める機会を提供する。

活動は会費や寄付で賄い、定期的な会合で情報交換。子どもたちを支援する「岡山子どもの貧困対策ネットワーク会議」が母体となり、子ども食堂などを運営する個人・団体の連絡組織「岡山こどもの居場所連携事業」と連携するほか、3年間をめどに支援モデルを構築し、国連の場での提案を目指

子ども食堂の支援を目指すプラットフォームの発足を記念したフォーラム

た。フォーラムには子ども食堂運営者らを含め約110人が出席。プラットフォーム世話人会代表の友実武則・赤磐市長、同ネット代表の直島克樹・川崎医療福祉大講師らが支援の重要性を訴えた。AMDAグループの菅波茂代表は「世界的にも貧困問題は大きな課題。岡山から対策のモデルを発信したい」と語った。(山内悠記子)